

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

小学校学習指導要領解説の中で、PISA調査などから見られる我が国の児童生徒の課題の一つとして、「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られる」ことが挙げられている。算数科に関していえば、計算の意味が十分理解されていないことや、学んだことを生活や他の学習に活用することが十分でないといった課題が見られる。このような課題を受けて示された小学校学習指導要領の算数科改訂の基本方針の中で、「根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考える」「言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決する」「自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする」ことの指導を充実させるという具体的な方針が示された。それを受け、本研究では、問題解決学習の中で、式や図などを用いて考えたり説明し合ったりする活動を通して、学習理解の深まった「わかった」状態に自らの力で到達できる児童を育成したいと考えた。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校の教育目標は、「学ぶことの大切さを知り、やさしさとたくましさをあわせもった児童の育成」である。本研究主題の『『わかった』を自らの力でつくり上げる児童』は、主体的に学習に取り組む児童の姿を目指しているものであり、教育目標にある「学ぶことの大切さを知る」ことの具現化につながる。また、本研究では児童同士による学び合いや、つまづきを認め合うことも重視しており、これは教育目標の「やさしさ」に結び付くと考えられる。

(3) 児童の実態、これまでの研究から

昨年度実施した全国学力・学習状況調査では、研究初年度からの系統性や意味理解を重視した指導の成果もあり「知識・理解」「技能」の力の高まりが見られた。その一方で、「数学的な考え方」は課題が残る結果となった。その後、昨年度末に実施したCDT検査では、ほとんどの学年で「数学的な考え方」の伸びが見られた。これも、研究初年度から図、式、言葉など多様な方法で考えたり表現したりすることを積み重ねてきた成果であると考えられる。しかし、今年度4月に実施した全国学力・学習状況調査では、「数学的な考え方」は再び課題が残る結果となった。また、「知識・理解」「技能」に関しても、前年度までに比べると全国平均に対する正答率が低下するという結果となった。

そこで、学習の進め方を見直ししながら、本年度も引き続き、児童が自分の力で考えたり、考えを説明したりする場を多く設けた、児童が主体となる問題解決学習の授業づくりを推進し、児童の思考力や表現力、主体的な学習態度を育てていきたいと考えた。

以上のことから、思考力や表現力の育成につながる問題解決の活動に主体的に取り組み、学習理解の深まった状態に到達できる児童を育成したいと考え、本研究主題を設定した。